

「環境を守る!」と言ったときに、愛着のない場所を守ることはなかなか難しいものです。奄美大島は、世界自然遺産に登録された素晴らしい自然環境を有する場所ですが、同時に、私たちの日常生活の場所でもあります。この奄美で「環境」を考えると、それは、私たちの生活の持続性を考えることであり、身近な「健康」や「教育」、「食」を考えることでもあります。どうすれば自然と共存していけるのか。そのためにみんなが愛着を持って地域活動に取り組むようになるためにはどうすればいいのか。「環境を守ること=私たちの生活を守ること」となることを目標に、総合的な探究に取り組んできました。

今回は、現3年生の2年次までの探究内容と、現在進行形で取り組んでいる海洋プラスチックという課題に対する取り組みについてまとめました。

## 奄美の海を守るには～自分たちの力で、持続できる地域を創る～

大島高校 総合的な探究の時間 (ST)

### 2023年1月29日 NPO 法人ゆいむすび実行委員会主催「朝仁海岸ビーチクリーン活動」に始まる探求

#### 1 海岸清掃活動

参加者：2年生（現3年生）64名

1年生（現2年生）約20名



漁業用の網に他の漂流物が絡んで、写真の人数でも持ち上げられない重さです



一見きれいな海岸ですが、少し歩いただけで両手に余るほどのゴミを拾うことができます



草の中にも打ち上げられたゴミ



ゴミは種類ごとに分別しておきます



どう分別すべきか分からない物も

#### 2 漂流物調査



ゴミの大半を占めていたペットボトルのラベルを確認すると、海外からの漂流物が殆どようです



種類ごとに1カ所に集めて、縦×横×高さを測り容積を記録することを教わります



質問にも丁寧に答えていただきました

#### 3 漂流物の洗浄 2023年2月10日（金）大島高等学校生物実験室・中庭にて



生物室の水道を借りて、再利用できそうなプラスチックを洗浄します 貝などがこびりついてなかなか手強いです



ここまできれいにするのに1個20分程かかりました

#### 4 プラスチックの再利用 (5月に三重県の株式会社 REMARE さんがプラスチックを粉碎し返送して下さい)



2023年7月12日（水）

奄美の海洋環境への意識を喚起できるアートを作成するため、まずは、粉碎してもらったプラスチックを色別に分ける。

しかし、この作業は思った以上に大変で、思うようには進んでいないのが現状である。

直径5mm以下のものは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、人体への深刻な影響も懸念されており、私たちの身近な海にもその危険があることを表現したいと考えている。

観覧の皆様へ、プラスチックの色分けを手伝っていただけませんか